

「多摩市の学校図書館のこと、お話を聞かせてください。」②学校図書館に市民運動/図書館友の会は関心がある。多摩市立図書館本館再構築基本構想
学校司書さんとの話/聞き取り資料 2016.09.23.

○千葉県君津市立図書館友の会の2代目会長さんは元小学校の先生。
開架室でのコンサート、図書館ツアー、連続図書館応援企画、など
こどもにつながる活動が多い。学校図資料費など議会請願もこなす。

第10回 図書館ピア/コンサート

～君津の秋 図書館のピアノは歌う～

日時:2016年10月2日(日) 午後5時50分～6時35分
演奏と歌:高梨 郁さん(ピアノ) 樋口 真衣子さん(ソプラノ)



君津市での活動
君津音楽協会主催「スプリングコン
サート」、房総楽友協会主催「名曲
コンサート」、八重原公民館文化祭
「音楽祭」等出演。



君津市での活動
八重原公民館「楽芸フェスティバル」
「畑況ふれあいサロン 支援者の会」等
出演。今後、八重原公民館文化祭等
出演予定。

★ プログラム ★

ピアノ 曲: モーツァルト “きらきらほし変奏曲”
シャー “チャルダッシュ・ラブソニー”
ソプラノ独唱曲: 山田 耕祐 “赤とんぼ”
小林 秀雄 “落葉松”

会場: 君津市立中央図書館1階 児童室
費用: 無料 申込み: 不要
主催: 図書館友の会きみつ 後援: 君津市立中央図書館

なお、当日の図書の貸し出し時間は、通常どおり、午後6時までです。

連絡先 図書館友の会きみつ代表 新井(52)2143 君津市立中央図書館(52)4646

なりきり 図書館員

友の会がいつも応援している図書館
職場体験していることおもしろいと思いませんか? 私たちもその一人...
やってみませんか? 君津中央図書館の協力を得て、会員限定で
そこで今回、君津中央図書館の協力を得て、会員限定で
“図書館員なりきり体験”を企画、1回のみでも3回通しでも参加できます!
ふるって、ご応募ください!

参加条件: 友の会会員
集合場所: 中央図書館1階ホール
友の会カウンター
募集人数: 各回とも10名

第1回
11月11日(水)
午前10:00～11:30
図書館の本を探そう!!
本の並べ方、検索機の使い方
本さがし体験など

第2回
11月19日(木)
午前10:00～11:30
憧れのなりきり図書館員!!
貸出カウンター、
本の修理体験など

第3回
11月30日(月)
午前10:00～11:15
おすすめの本を紹介しよう!!
おはなし会体験など

問合・申込先
友の会きみつ代表 新井 52-2143
または、図書館友の会カウンターにて受付
10月7日、14日、21日、28日水曜日
午前10～12時まで

※11時15分より友の会の毎年恒例の
クリスマスツリーの飾りつけを
予定しています。

なお、お
定員を
ご希望の方は、後日お知らせハガキをお送りいただけます。
※希望の受付となりますので、ご了承ください。

とよかのTOMOみなみそうま ニュース2016.9.4
山形県・鶴岡市に学ぶ...!!!

先進地、図書館見学・研修の旅 ご案内!

*「鶴岡市立朝陽第一小学校」の図書館活用教育に学ぶ!
*その活動を支える、教諭・司書さんの活躍の事例を学ぶ!

山形市立朝陽第一小学校図書館 & 鶴岡市立図書館 (& 数道博物館) 見学研修

ぶらさ 歴代周平記念館(鶴岡公園内の散策)

10月4/5日(火・水)

集合時間 AM. 7:50・出発時刻 AM. 8:00・帰予定 PM. 5:45
集合場所:旧市文化センター駐車場・北西側入り口
貸切バス利用、一泊。(宿泊/朝食付き・保険料含む)
昼食・夕食別会計、《百けん 着ランチ》:《第一ホテルタ・昼食事処》にて

会費: 18000円

***先着、20名。締め切り日9月30日ですので、
お早めに申し込みください!***

連絡先:事務局、(森岡 TEL090-9530-1334/FAX23-2603)、(根本 TEL24-0566 FAX23-1955)

図書館フレンズいまり20周年 記念講演会

講師 **岩崎夏海氏**
演題 **夢を叶えるには
～もしあなたがドラッカーの
『マネジメント』を学んだら～**

※あの『もしドラ』作家が語る
叶え方
※明日からあなたも行動する人

【問合先】
市民図書館
0955-23-4646
主催:図書館フレンズいまり 共催:伊万里市民図書館

平成27年
4月5日(日) 13時30分
(開場 13時)

13:30 開会、主催者挨拶、来賓挨拶
13:45～ 講演(55分)
14:40～ 休憩(10分)
14:50～ 16:00 パネルトークライブ(70分)
岩崎夏海X鬼塚裕司(森ゼミ講師)
・サイン会 16:30まで

伊万里市民図書館ホール

当日10時からフレンズいまりで整理券配布

入場無料:120人程度(先着順)

平成7年7月7日に伊万里市民図書館が開館して、
同年9月に友の会である「図書館フレンズいまり」が発
足しました。市民図書館と共に今年で20周年を記念し
て、講演会を開催いたします。
講師には『もしドラ』と呼ばれている小説『もし高校野
球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を
読んだら』の著者である岩崎夏海氏をお招きします。ドラ
ッカーの研究家としても著名な岩崎氏の講演だけでなく、
来場者との意見のやりとりを交えたパネルトークを併
せて行います。

市制60周年記念事業 家読推進講演会

日時:2月14日(土) 13:30～16:00 会場:伊万里市民図書館 ホール
《基調講演》講師:星 健次郎氏
(埼玉県三郷市 教育委員会学校教育部 部長)
演題:「三郷市における家読の推進と広がりについて」

《プログラム》
1. 合唱 家読テーマソング『こころないで-read and talk-』
出演:伊万里少年少女合唱団
2. 読み語り 布タベストリ絵本『三びきのこぶた』
出演:大坪小学校ボランティア「おはなしや」
3. 式典 「うちどく川柳コンテスト」表彰式... 優秀作品(6句)発表
4. 基調講演 講師:星 健次郎氏

主催:伊万里市民図書館 後援:佐賀うちどくネットワーク

※入場無料
※事前申し込み不要

図書館フレンズいまり主催 図書館めばえの日 ぜんざい会

平成6年2月26日、現在の図書館の起工式が行われました。この時、図書館の完成を心待ちに
していた大勢の市民と関係者が集い、手作りのぜんざいをお祝いをしたのが「図書館めばえの日」
の始まりです。今年も図書館フレンズいまりから来館者へぜんざいがふるまわれます。当日はいす
の木合唱団によるコンサートと古本市も開催されますので、皆さんぜひお出かけください。

日時:2月22日(日) 11:00から(先着300名分)
場所:市民図書館 ホール *古本市は10:00～14:00に開催

○福島県南相馬市立図書館友の会会長さんも元小学校の先生。
今年度から自動車図書館運行を実現させる。全学校司書は
公共図書館採用して、中央館が毎日学校に派遣している。
学校図の講演企画も多く、講師の山形の小学校に市民で
今秋は一泊で見学にゆく。会費は高いが意気軒昂。

子どもたちに歌の心を伝えたい

「いすの木合唱団」は、教科書から消えていく唱歌や童謡を伝え
ていきたいと発足した図書館専属の合唱団です。平成13年から
図書館での様々なイベントで美しい歌声を響かせています。
そんな合唱団の皆さんが、次の世代にも美しい日本語を届けたい
と、毎月第3木曜日(午前11時20分頃から10分程度)に
子ども開架室で歌われることになりました。毎週木曜日の午前中
は、乳幼児向けの「おはなし012」を2回行っていますが、そ
こに集まるお母さんと赤ちゃんにも、美しい日本語で楽しい歌を
知ってほしいという思いが込められています。
聞けば口ずさめるような誰もが知っている童謡を集めたミニコ
ンサート。ぜひ、みなさんも童心に返って楽しんでみてください。

「おはなし012」の合同子ども
たちへ歌ういすの木合唱団

○佐賀県伊万里市民図書館友の会も、立ち上げの時から学校図書館にも勉強の手を広げる。
2台の自動車図書館で市民ボラと訪問、学級招待、学校司書研修、中心的Mバーは今議会議長に。
林公さんの「朝読」を取り入れて、現在は「家読」に。厳しい財政だが、資料費を重視している。

「多摩市の学校図書館のこと、お話を聞かせてください。」 ③あたらしい多摩市の中央図書館が、生まれようとしています。

多摩市立図書館本館再構築基本構想
学校司書さんとの話／聞き取り資料
2016.09.23.

●「多摩市における中央図書館機能およびその整備のあり方について（答申）」 H22.2010. 図書館協議会

1.文化都市にふさわしい「本の館」を（総論）

少子高齢化の進む多摩市の将来を考えたとき、高齢者にとって住みよい都市作りはもちろんだこと、若い世代にとっても魅力的で、とりわけ子どもを育てるのにふさわしい都市づくりの視点を欠かすことはできない。

幸い多摩市は豊富な自然環境に恵まれているうえ、多くの大学が集中する地域内に位置し、さらに芸術・芸能を発信する「バルテノン多摩」という貴重な施設をもつ文化水準の高い都市といえよう。しかし、そうした中で活字文化や情報収集の拠点となる図書館の現状は、とても十分とは言えず、より魅力的な文化都市を創造していくためには、新たな「本の館（やかた）」というべき中央図書館を建設し、サービス内容を質量ともに深めていくことが求められる。

●念頭に置くべき3つの中央図書館整備

その場合、中央図書館は以下の3つの柱を念頭に整備すべきと考える。

- ① 多摩市の図書館システムの中核として、また7つの地域館と結びあい、その活動を支える。
- ② バルテノン多摩との連携も図りつつ、多摩市の文化・情報・教養活動の基地となる。
- ③ 学校との連携も含め、生涯学習の拠点となる一方、市民のコミュニケーション向上に役立つ。

2.現在の「本館」の問題点

現在、多摩市の中心館である多摩市立図書館、通称本館（以下「本館」）は、学校跡地を10年間の暫定施設として最小限の改修をしたのみであり、中央図書館と呼ぶには様々な問題がある。

中央図書館は市民誰もが使える施設でなければならない。しかし本館は駅から徒歩15分の距離があるのに加え、坂の上に位置している。最寄りのバス停からも遠く、階段や坂をあがらなければならない。障がい者、高齢者、幼い子ども連れの利用者が公共交通機関で利用するのは難しい。車で来館する場合も駐車場が狭すぎる。

また本館は延床面積は広いが、教室を転用しているため、荷重の関係で書架を分散して置かなければならず、広さは利点よりむしろ移動距離が長い欠点として作用している。障がい者や高齢者にとって、建物の端にある館内エレベーターから2階の閲覧室等を利用するのは不便である。

また、荷重の理由で、床面積の割には蔵書収容能力が低いため、資料は各館に分散しており、本館1か所ですべての資料を収めることができず不便をきたしている。

もとより資料を保存する設備がなく、特に3、4階の書庫は冷暖房すらないため温度差が激しく、多摩市の行政資料をはじめとした貴重な蔵書の劣化を招いている。

こうした問題点を解決するためにも中央図書館の設置が急務である。

4.中央図書館の役割とサービス

(1) 多摩市の図書館システムの中核として

～多摩市の図書館システムの中核として、また7つの地域館と結びあい、その活動を支える。～

●7つの地域館と結び合い、その活動を支える。

① 蔵書構築と保存

図書館は、1か所でいろいろなジャンル・角度からの情報を得られるところである。中央図書館は、市民の様々なニーズに対し最終的に責任を負う館としての役割を担っている。そのためには、郷土、都・市行政、記録、美術・芸術、映像、音楽・音響、時事・社会問題など、各分野の資料を専門書も含めて整備、充実し、できるだけ開架展示を進めるべきである。その中には、多摩ニュータウン関係、パンフレット等を含めた地域資料、長年多摩市に在住の作家、多摩市にゆかりのある著名人の資料など、多摩市ならではの資料が含まれる。多摩市固有の資料を積極的に収集し、活用し、市民にPRするのは、図書館の重要な責務である。

資料は時期を逃すと再入手できないものが多く、長期的展望での資料収集・蔵書構築をする必要

がある。信頼される中央図書館として、100万冊規模の蔵書が必要と考える。

しかし、現本館の現在の書庫は空調がなく温度湿度管理ができないため、資料保存には適さない。資料は再入手できないものが多く、とりわけ、多摩市固有の資料は他自治体や研究機関を頼ることはできない。

保存は未来の利用者の資料利用を保障するためのものである。貴重な資料を保存できる環境を早急に整備する必要がある。

② 充実したレファレンス機能

蔵書を活用した図書館サービスには、貸出、閲覧など様々な方法がある。質の高いサービスは図書館への信頼に繋がるものであり、その代表的なものがレファレンスサービスである。

レファレンスサービスは、調査研究、参考調査などと呼ばれ、図書館職員の援助を介して資料と利用者が結びつくサービスである。現在は、個人の疑問や日常の課題解決などが主なものとなっているが、地元企業、商店へのビジネス情報支援は、地域社会の活性化に繋がるなど、多様な可能性を秘めている。

レファレンス機能を充実するためには、専用カウンターを設けて市民の様々な課題に応えることを積極的に知らせると共に、レファレンスに応えられる専門職ならではの司書の働きを示すべきである。同時に、市の行政・議員へのサービスも強化し、図書館の働き、深さ、価値を認識してもらうことも重要である。

③ インターネット、各種DVDなども備えた情報の拠点化

図書館の「資料」とは、図書に限定したものではない。様々な形態の資料、つまり「情報」を収集し提供する役割がある。各種電子媒体をはじめ、音声資料、映像資料など幅広い媒体を対象とすることで、多様な市民の興味を喚起するものとなり得る。

それにはインターネットも忘れてはならない。例えば、速報性が高く細分化された情報をもたらすものは新聞、雑誌などの逐次刊行物であり、できるだけ幅広く提供することが望まれるが、全てを揃えるのは困難である。有料データベース¹を含めたインターネットの活用により、飛躍的に資料数を拡大することができる。なお、インターネット環境などについては、中央図書館だけでなく図書館全体としてレベルアップを図るべきである。

「役に立つ図書館」とは、課題が解決できる豊富な資料群と、それらを駆使して課題解決を支援する司書のいる図書館である。多摩市の図書館を代表する中央図書館は、本の媒介から、情報や文化を提供する文化センターとしての機能も果たして行く必要がある。

④ 分館とのネットワーク充実と移動図書館

●移動図書館復活？

中央図書館が整備され、地図の上では図書館空白地域は殆どなくなっても、実際は、坂や広い道路があり、利用が不便な地域はまだ残されている。平成15年度をもって終了した移動図書館が復活することが望まれる。それが難しい場合は、それに代わるきめこまかな対応が必要である。

●それにかわる細やかな対応？

高い機能を持つ中央図書館は必要だが、各地域にあり市民の身近な利用に供される分館も変わらず大切である。むしろ、中央図書館による分館の支援が強化されることで、身近な窓口として役立つ分館の信頼が高まり、図書館への要望が高度化するはずである。中央図書館の設置により、多摩市の図書館ネットワーク全体が充実することを希望する。

●中央図書館の設置でネットワーク全体の充実を！

⑤ 東京都、国、他区市立図書館、類縁機関等との対外窓口

中央図書館における蔵書の充実が必須だが、それでもなお、全ての資料を網羅できるわけではない。図書館は膨大な情報の入り口であり道しるべとしての役割も果たさなければならない。中央図書館は、多摩市を代表し、他の図書館、類縁機関との対外窓口としての役割を更に積極的に進めるべきである。

○学校に対する公共図書館の使命については、下のように図書館長に答申がされています。

< 中 略 >

① 学校との連携

現在、学校図書館司書が学校図書館にない本や調べ学習のテーマを公立図書館に伝え、図書館から必要な資料が学校に配送されるなど、ある程度は支援制度が機能している。中央図書館では、これを更に発展させるよう取り組むべきである。

調べ学習などにおいて、一つのテーマでも、いろいろな角度・切り口の資料を揃えて提供することが求められる。それを迅速かつ適切に行うための資料センターとして、学校と連絡を取りながら、責任を持って長期的・計画的に資料を収集することが図書館の使命であり、担当部局・担当者を設置すべきである。

●学校に対する図書館の使命

学校図書館との連携に加え、学校との連携、特に教師への図書館サービスも今後考え、それをより発展させていくべきと考える。

< 後 略 >

※図書館協議会は、教育部の図書館に属して、図書館長の諮問機関として所見表明や答申を行います。同じ教育部であっても、学校教育に属する学校や学校図書館に対して諮問答申を直接する立場にありません。しかしながら、多摩市全体の図書館ネットワークの充実について研究し、上記のような答申が付帯されたものと想像できます。なお、図書館協議会の委員には、学校長の代表も含まれて協議や答申がなされています。

「多摩市の学校図書館のこと、お話を聞かせてください。」 ③あたらしい多摩市の中央図書館が、生まれようとしています。

多摩市立図書館本館再構築基本構想
学校司書さんとの話／聞き取り資料
2016.09.23.

○あたらしい中央図書館とその基本構想について、
学校司書のお立場でお考えになることを聞かせてください。

話題01、多摩市の小中学校図書館の課題研究／これまでの活動。

(多摩市の新図書館本館と全体システム再出発のかたちを考えてきて。)
・そこで、伺いたい現状と課題。2つの話題/テーマ。

①図書館利用リテラシー、本との出会い、公共図書館連携、について。

②教育(課題)支援、教員支援、の状況について。(研修体制は)

話題02、学校図書館サービスと施設環境の将来像と課題、について。

・そこで、お願いしたい3つの話題/テーマ。

①多摩市の学校図書館が成長していくために、なにが必要か。

・資料(全市MARC / 選書・共通装備 / 資料費 / 流通支援・・・)

・施設(資料世界表現 / ひろさ / 座席 / たまり場 / 地域開放?・・・)

・教員・司書(開館時間 / 研修体制 / 教育への支援 /

・児童/生徒の生活(利用状況、年間一人利用冊数、生徒の要望・・・)

②中央図書館が整備されたとき、どんな連携/支援を期待するか。

③全体再編後の地域図書館には、どんな連携/支援を期待するか。

※学校図書館とつながり一体の公共図書館になっているだろうか。

・学校司書さんたちの集まりで、研究テーマにさせていただきますか。

○右表は7月21日の学校司書ヒアリングの記録です。

本館再構築基本構想策定委員会にも配付し報告されています。

日時：平成28年7月21日(木)13:00~14:10

出席：愛和小学校 学校司書：中村司書(多摩市立図書館OG)

多摩市教育部教育指導課：中村

多摩市立図書館：笹原

寺田大塚小林計画同人：寺田、小林

<p>01：多摩市の小中学校図書館の学校司書</p> <ul style="list-style-type: none"> ○他市町に先駆けて、多摩市は学校司書を配置してきた。全小中学校に、学校司書が配置されている。 ○学校司書は、教育部教育指導課が採用・配置・研修を行っている。 ○学校司書の勤務は、週29時間(週5日) 	<p>01-②：学校司書の研修の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校司書の研修は、教育部教育指導課が行っている。 ○公共図書館の手助けは、あまり感じられない。 ○学校司書個人の自主学習(研修会や講習への参加)が多い。 ○市に依頼して学期1回の司書会を呼び掛けた。情報共有など行う。
<p>01-①：図書館利用リテラシー</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小学校は週1回、図書の授業で学校図書館を利用する。 ○読書体験の地域差があるように感じている。 ○導入として、読み聞かせ・絵本は有効。 アゲハチョウの羽化の授業で「はらぺこあおむし」など 	<p>01-②：教育(課題)支援,教員支援の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○調べ学習支援、子どもと本を繋ぐなど様々な活動を行っている。 ○活動の充実度は、学校によって差があると感じる。 ○学校図書館を十分に活用する動きになるには、人のつながりが大切。学校司書と司書教諭との連携が不可欠であり、校長の方針にも左右されると感じている。
<p>01-①：本との出会い(蔵書と予算、環境)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校図書館の年間資料費：愛和小学校の場合は28万円。 ○蔵書数はあるが、新しい本がない。手に取りたい本が少ない。「ある」と「手に取りたい」は別。公共図書館の廃棄本も活用。 ○選書は学校司書が行う。見計らいなし。公共図,書店を使って。 ○調べ物の本で予算を使い切ってしまう。読み物の本は少しづつ集めることになる。読み物の本は子どもと本を繋ぐのに重要。 ○空調設備がない。暑い中、児童が汗をかいて本を読んでいる。過ごしやすい図書室にできれば。 ○企画を行う等の活動には(人が動くには)、予算が必要。お金がないから何もできないということは言えないが・・・。 	<p>01-①：公共図書館との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校図書館システムと公共図書館システムが連動、一元検索可。 ○調べ学習の資料は公共図書館から借りている。(学校間の図書の融通はない。お互いに貸せる蔵書がない?) ○連絡便が週3回ある。 ○公共図書館への図書館訪問。小学2年がクラス単位で学区の図書館へ訪問し、見学・利用案内などを行う。 ○公共図書館からのなげかけブックリスト「よんでみよう」や読書郵便などには応えている。
<p>02-①：学校図書館が成長していくために必要なもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ●資料 <ul style="list-style-type: none"> ○全市MARCは整備完了。 ○選書は学校司書個人が行っている。 ○資料費の課題。 ○週3回の連絡便あり。十分か。 ●施設 <ul style="list-style-type: none"> ○資料世界表現に十分な、元気な蔵書があるか。 ○空調などの環境の課題。 	
<p>02-②：新本館(中央図書館)への期待</p> <ul style="list-style-type: none"> ○資料の充実に期待する。 ○学校図書館担当が必要。学校司書から直接つながる窓口になる「人」がほしい。かつて児童サービスとして担当を置く構想があった。公共図書館も「児童サービス」を勉強してほしい。 ○支援コーディネーターがいてほしい。 ○学校司書の研修を公共図書館でやってほしい。 	<p>02-③：地域図書館への期待</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校司書が資料を借りに行く。先生からの依頼・調べごと(自分の時間と車を使って) ○管轄の子どもは学校と同じ。情報共有ができるとうい。 ○子どもは公共交通を使わずに通える地域の図書館を利用する。 ○学校図書館から地域図書館を使う子どもを育てたい。図書館体験の積み上げ「読む」だけではなく「使う」を学ぶ場。
<p>学校図書館と公共図書館のつながり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○司書同士の個人的つながりはある。個人差が大きい。 ○公共図書館の職員組織の問題も。「課」によって違う。タテワリを感じることもある。 	<p>学校図書館の地域開放</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小学校の日中は、図書の授業時間でほぼいっぱい。中休み・昼休みしか空きはない。放課後は司書がいらない。 ○放課後に開放するなら、司書の勤務体制を整える必要あり。

「多摩市の学校図書館のこと、お話を聞かせてください。」④公共図書館と学校図書館、ともに、「図書館のめざすもの」とは何でしょうか。

- ・ 図書館員になるということ
- ・ 図書館のめざすもの
- ・ 図書館リテラシー
 生きるためのスキル習得：情報リテラシー

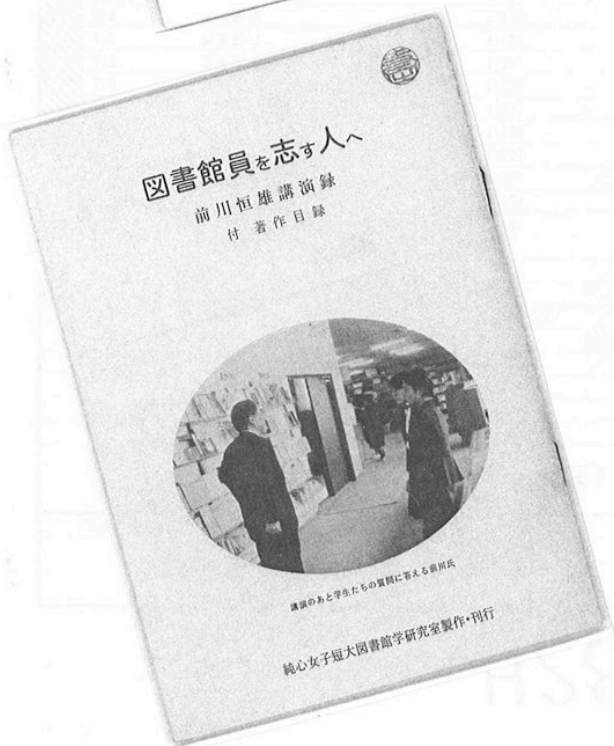
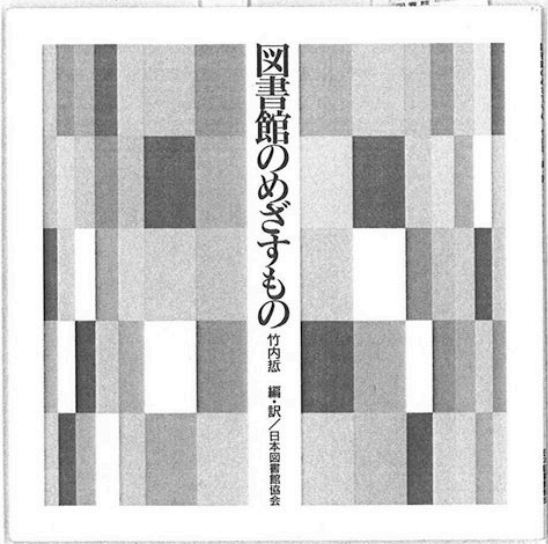
『図書館のめざすもの』とは何か
 一序に代えて／竹内 恵

アメリカ社会に役立つ図書館の十二箇条

はじめに

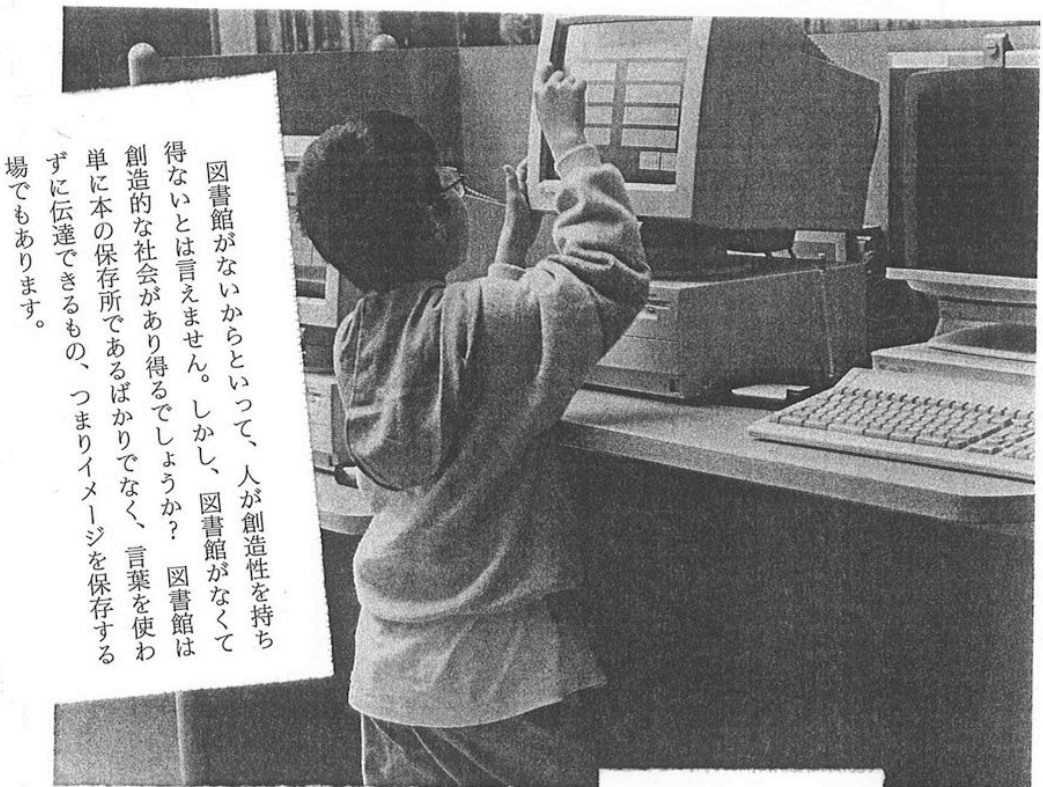
- 一、図書館は市民に知る機会を提供します
- 二、図書館は社会の壁を打ち破ります
- 三、図書館は社会的不公平を改めるための地ならしをします
- 四、図書館は個人の価値を尊重します
- 五、図書館は創造性を育てます
- 六、図書館は子どもたちの心を開きます
- 七、図書館は大きな見返りを提供します
- 八、図書館はコミュニティを作ります
- 九、図書館は家族のきずなを強めます
- 十、図書館は一人ひとりを刺激します
- 十一、図書館は心の安否の場を提供します
- 十二、図書館は過去を保存します

41 38 35 32 29 25 22 20 18 16 13 11 10 9 3



恐らく二十一世紀には図書館の定義が拡大されて、フランスのラスコーの先史時代の壁画さえも一種の図書館として認めるようになるでしょう。それは、この壁画も図書館も、創造性をかき立てる力を持つからです。そして、その点から考えて、図書館を社会の存続のための基礎として確認することになると思います。

好奇心をそえられるという面から見ると、図書館の中でわれわれは、子どもと同じような存在です。好奇心というものは、創造性と想像力という双子の能力の親だからです。その好奇心を刺激することで、図書館は利用者の心を、日常的な地平を越えて飛躍させるという目的を果たすことが



図書館がないからといって、人が創造性を持ち得ないとは言えません。しかし、図書館がなくて創造的な社会があり得るのでしょうか？ 図書館は単に本の保存所であるばかりでなく、言葉を使わずに伝達できるもの、つまりイメージを保存する場でもあります。

もちろん、創造性を必要とするのは芸術家ばかりではありません。政治家、科学者、教師、実業家、それから図書館員たち自身も、直面する問題や疑問を考えるために、新しい方向を見つけなければならぬのです。そこから生まれた新しい考え方は、私たちのこの世界の断え間のない変化の原因であるとともに、変化に対する反応でもあります。図書館にはもはや使われないような昔の思想が保存されていますが、新しいものを求めて止まない心の中で、異なった思想が互いに交流することによって、昔の思想は、まだだれも考えたことがない疑問を解くための原料となるのです。

一つの社会が環境の変化を受け入れ、発展しようとする時に、ほかに考えようのないほどはつきりしていることがあります。それは、コンピュータで作られる虚像的なものにせよ、あるいは実在するものにせよ、図書館とは食物や住居と同様、社会にとって基本的なものだということです。

「もし図書館を使うことが学習の最終目標でないならば、学校に行くのは無益だ」と言ったのはレイ・ブラッドバリー(注1)です。創造的な心は図書館に住んでいます。それは、自らの創造性を維持するために、心が図書館を作り出したからです。

注1 「レイ・ブラッドバリー」(Ray Bradbury, 1920-) 作家。一九四七年と四八年のオー・ヘンリー賞をはじめ多数の賞と文学博士号とを受けている。「華氏四一五一度」を含む小説、シナリオ、詩など多くの作品を発表している。

5

図書館は創造性を育てます

図書館のめざすもの
 竹内 恵 編訳 / 日本図書館協会